

# 紀美野町定員適正化計画 (第2次)

平成23年4月



**紀美野町**

## 紀美野町定員適正化計画（第2次）

<はじめに>

紀美野町は、平成18年1月1日に旧野上町と旧美里町が合併し、人口11,641人、面積128.01K㎡の町として誕生しました。

当町は、中山間地域で大きな産業や集合型の大規模店舗もなく、公共交通機関並びに道路整備等の住環境整備が遅れています。そのうえ、町内や近隣市町村には雇用の場が少ないことから、人口の流出に歯止めがきかず、過疎化が深刻化しています。

『新町まちづくり計画』によると、当町の人口は、平成27年度には人口は1万人を下回り、反対に高齢化率は41%を超過するという推計がでています。

また、当町の財政状況について、人口の減少や景気の悪化により税収が落ち込んでおり、自助努力により収入を増やすことは、非常に困難な状況にあります。対して、歳出については、住民サービスの多様化、高齢化による医療費等増加に加え、地方分権により市町村に権限が委譲されるとともに経常経費が増加しています。

このような状況を打開し、時代の流れとともに変わりゆく住民のニーズに添えていくためには、地域の特殊性、事業の効果、効率性及び費用対効果を考慮しながら、行政運営に取り組んでいかななくてはなりません。

その中で、歳出全体の20%を占める人件費は、見直しの重点項目の1つであることから、組織の合理化と共に、職員の削減に取り組まなければならないと考えております。

このような状況の中、当町では、平成18年度に定員の適性化に取り組むため、第1次定員適性化計画（平成18年4月～平成23年4月）を策定し、計画的に取り組んできた結果、職員数を34人削減することができました（目標値23人削減、達成率148%）。なお、金額にして約320百万円を削減したことになります。しかし、類似団体や同規模団体と比較した場合、依然、当町の職員数は超過していることから、本計画を改定し引続いて職員の適性化に努めてまいりたいと考えております。

紀美野町長 寺 本 光 嘉

# 目 次

1 基本方針	1
2 計画期間	1
3 定員適正化の目標	1
4 第1次計画の実績	1
5 定員管理の予測と数値目標	2
① 今後の事業要員の予測	3
② 定員適正化の年次目標	3
③ 各部門ごとの職員数の配置状況と今後の方向性	3
6 削減による問題点等と取組み方針	5

## I 定員適正化計画策定の目的

### 1 基本方針

当町の職員数は、平成18年4月1日現在で240名でしたが、第1次の紀美野町定員適性化計画を基準に、取組んできた結果、目標を大幅に達成することができました。

しかし、当町の職員は類似団体等と比較して、依然超過しているため、計画的に定員の適性化に取り組んでいくこととします。

また、職員の削減により生じる住民サービスの低下を最小限に留めるため、組織機構の見直しや事務事業の廃止・縮減することにより対応していくこととします。

### 2 計画期間

平成23年度から平成28年度（5年間）

### 3 定員適正化の目標

平成23年 4月 1日（現在職員数）	206人
平成28年 4月 1日（目標職員数）	186人
（削減数）	▲20人

### 4 第1次計画の実績

第1次紀美野町定員適性化計画では、退職者の1/4を基準に平成23年4月1日の職員数を217人（23人削減）としていました。下記により取組んだ結果、目標値を大幅に上回る206人（34人削減）まで削減することができました。また、歳出の削減額についても約320百万円を削減しています。

- ① 勸奨制度を活用した、早期退職希望者の斡旋
- ② 退職者に対する採用職員数の基準を1/4とした。
- ③ 合理的な組織とする為に組織機構の見直しを行なった。
- ④ 同一種や老朽化した公共施設の統廃合を行なった。
- ⑤ 事務事業の見直しを行なった。
- ⑥ 指定管理者制度を活用した。

### (1) 職員増減年次表(教育長除く)

	年度当初 職員数	勸奨 退職者数	定年 退職者数	その他 退職者数	年度末 職員数	採用者数
平成18年度	240	2	4	1	233	0
平成19年度	233	7	3	1	222	2
平成20年度	224	4	3	3	214	5
平成21年度	219	6	4	2	207	0
平成22年度	207	2	6	1	198	8
平成23年度	206					
計		21	20	8		15

### (2) 前計画の達成状況

	職員数	削減数
計画当時の職員数(H18.4.1) a	240	
定員適性化計画の目標数 b	217	▲ 23
計画終了時の職員数(H23.4.1) c	206	▲ 34
目標削減数に対する達成率 c/b		148%

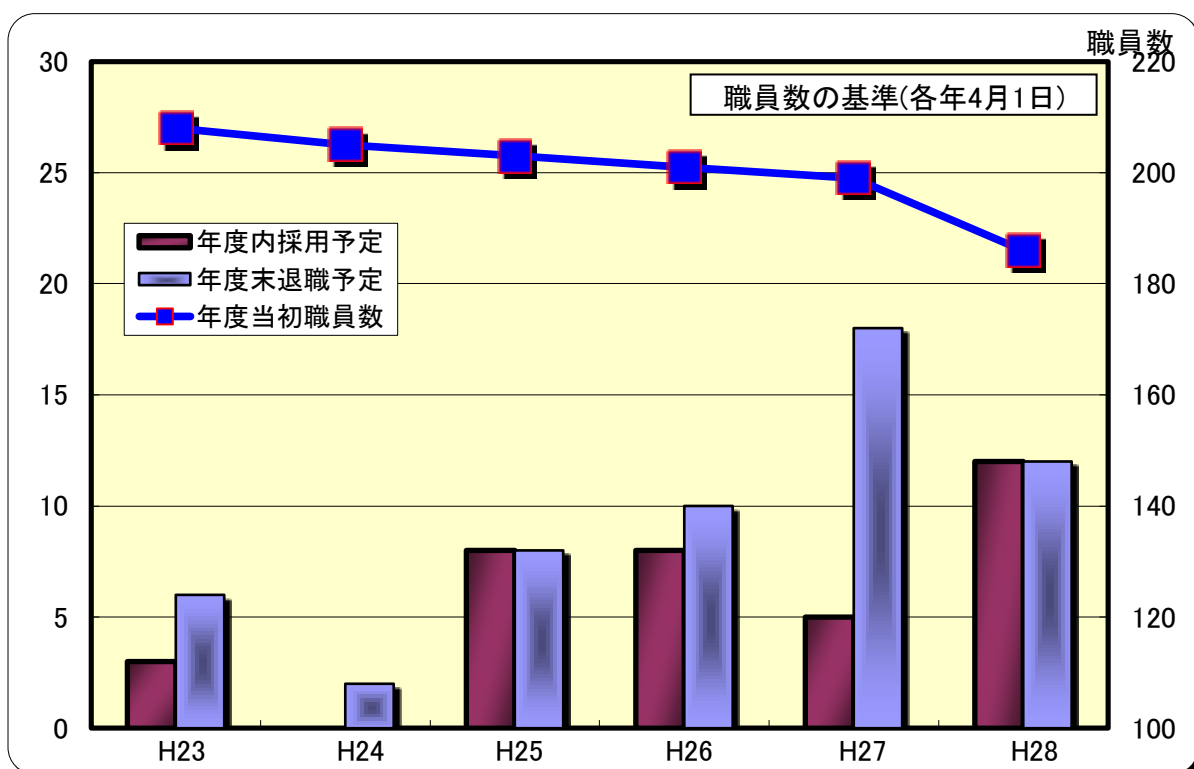
## 5 定員管理の予測と数値目標

### ① 今後の採用基準

町職員は1人の職員が複数の現場や事務事業を抱えています。そのうえ、地方分権による権限の委譲や新規事業により事務事業が、益々増加すると考えられています。このような状況の中にあって、安易に職員数を削減することは、住民サービスの低下及び行政運営の混乱を招くこととなりますので、定員の適性化を進めるうえで、組織機構の見直し、事務の外部委託及び事務事業の見直しを進めていかなければなりません。

その為、計画期間における新規職員の採用については、退職者数の1/2を目安とします。

## ② 定員適正化の年次目標



年 度	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年
年度当初職員数	206人	203人	201人	201人	199人	186人
年度内採用予定 (翌年度新規採用者)	3人	0人	8人	8人	5人	
年度末退職予定	6人	2人	8人	10人	18人	
退職者累計	6人	8人	16人	26人	44人	

## ③各部門ごとの職員数の配置状況と今後の方向性

各関係部署ごとの事務事業については、国県の施策及び町の新規事業により必要人員が変わってくるため、その年々の状況を踏まえつつ適正に人員を配置する必要があります。また、当町は合併による住民サービスの低下を抑えるために、本庁・支所方式を採用し、必要人員に十分配慮していますが、今後は職員の削減により行政運営に障害がおこらないような、組織機構の再編を進めていかななくてはなりません。

区 分		類団値	H23	H24	H25	H26	H27	H28
一般行政部門	議 会	2	2	2	2	2	2	2
	総 務 企 画	29	28	28	28	28	28	27
	税 務	8	11	11	10	10	10	9
	民 生	27	32	31	31	31	31	29
	衛 生	11	13	13	13	13	13	12
	労 働	2	2	2	2	2	2	1
	農 林 水 産	9	15	14	13	13	13	11
	商 工 ・ 観 光	5	6	6	6	6	6	5
	土 木	9	11	11	11	11	11	10
	小 計	102	120	118	116	116	116	106
特別行政部門	教 育	23	26	25	25	25	24	24
	消 防	42	33	33	33	33	33	33
	小 計	65	59	58	58	58	57	57
公営企業等	病 院		5	5	5	5	5	5
	水 道		9	9	9	9	9	8
	交 通							
	下 水 道		1	1	1	1	1	1
	そ の 他		12	12	12	12	11	9
	小 計		27	27	27	27	26	23
合計		167	206	203	201	201	199	186

## 6 削減による問題点等と取組み方針

職員の定員適性化に計画的に取り組むためには、同時に組織機構の見直しをしなければなりません。組織機構や事務事業の見直しにより生じる住民サービスの低下とその取組に付いて次のように示します。

### 1 職員にかかる事務の増加と住民サービスの低下

#### 【取組】

本計画に基づき職員数を削減していくことに加え、地方分権による国・県の事務や責任が当町に委譲されることで、1人当りの業務量が増加することになります。

当町は合併前に様々な事務事業が合併協議により継続、廃止、改正を含め調整しましたが、職員を削減していく為には、再度、抜本的な事務事業の見直しが必要となります。その為、当町では平成23年度より事務事業評価の制度を取り入れることで、事務事業の統廃合を含めた見直しを行なっていくこととします。

また、同時に「紀美野町人材育成基本方針」を定め職員研修を計画的に実施し、職員の資質向上図っていきます。

### 2 組織機構の見直し及び公共施設統廃合に伴うサービスの低下

#### 【取組】

公共施設の統廃合により不要な施設や老朽化した施設は、維持費削減の観点から原則廃止していくこととします。また、その中で利用可能な施設については、民間への貸与又は売却することも視野に入れて検討して行きます。

ただし、本来その場所に設置されていた施設が無くなることは、地域住民にとってサービスが低下することに直結することになりますので、地域住民と協議調整し統廃合していくこととします。